




**BLACKDUCK** | Hub

リリースノート  
バージョン4.1.0



このエディションの『リリースノート』は、バージョンBlack Duck Hubの4.1.0を対象としています。

本ドキュメントは2017年8月21日に作成または更新されました。

**コメントおよび提案については、次の宛先までお送りください。**

Black Duck Software, Incorporated  
800 District Avenue, Suite 201  
Burlington, MA 01803-5061 USA

Copyright © 2017 by **Black Duck Software, Inc.**

All rights reserved. 本ドキュメントの使用はすべて、Black Duck Software, Inc. とライセンス所有者の間の使用許諾契約に準拠します。本ドキュメントのいかなる部分も、Black Duck Software, Inc. の書面による許諾を受けることなく、どのような形態または手段によっても、複製または譲渡することが禁じられています。

Black Duck、Know Your Code、およびBlack Duckロゴは、米国およびその他の国におけるBlack Duck Software, Inc. の登録商標です。Black Duck Code Center、Black Duck Code Sight、Black Duck Hub、Black Duck Protex、およびBlack Duck Suiteは、Black Duck Software, Inc. の商標です。他の商標および登録商標はすべてそれぞれの所有者が保有しています。

Chapter 1: 新機能	1
バージョン4. 1. 0の新機能	1
Kubernetesのサポート	1
バージョン4. 0. 0の新機能	1
概要ダッシュボード	1
外部のPostgreSQL データベース	1
修正ガイダンス - ベータ版	1
クロスサイトリクエストフォージェリ	1
シングルサインオンのサポートを実現するためのSAML	1
ウェブサーバーの構成設定	2
デフォルトのユーザーランディングページ	2
バージョン3. 7. 0の新機能	2
新しいHub Docker アーキテクチャ	2
問題追跡機能	2
バージョン3. 6. 0の新機能	3
新しいHub Docker アーキテクチャのベータ版	3
レポートデータベース	3
構成表表示のPDF ファイルへの出力	3
プロジェクトを構成表に追加する機能	3
Docker 化されたスキャンクライアント	4
バージョン3. 5の新機能	4
構成表へのコメントの追加	4
構成表のレビューフラグ	4
コードの場所の名前	4
検出ソースの表示	5
Oracle Enterprise Linux 7のサポート	5
バージョン3. 4. 2の新機能	5
Hub 電子メールエクステンション	5
新しいHubの統合	5
バージョン3. 4の新機能	5
新しいOSS属性モジュール	5
パッケージマネージャのサポート	5
Linux ディストリビューションのマッチングの向上	6

バージョン3.3.2の新機能 .....	6
非Hubサーバーから提供されたウェブページからREST APIにアクセスする機能 .....	6
バージョン3.3.1の新機能 .....	6
エクステンションのサポート .....	6
コードサイズ制限の通知 .....	6
APIの拡張機能 .....	6
バージョン3.3.0の新機能 .....	6
通知ファイルレポート .....	6
フィードバックサービス .....	6
MavenおよびGradleプロジェクトのサポート .....	7
APIの拡張機能 .....	7
オペレーティングシステムに対するサポート .....	7
Hubの統合 .....	7
バージョン3.2.0の新機能 .....	7
サブコンポーネントの検出 .....	7
脆弱性により影響を受けるファイルを表示する機能 .....	7
Hubの統合 .....	8
バージョン3.1.0の新機能 .....	8
構成表のパフォーマンスを改善 .....	8
永続的な構成表の編集 .....	8
Protex構成表のインポートログ .....	8
Hubスキヤナの証明書ベース認証のサポート .....	8
インストーラパッケージにドキュメントが含まれます .....	8
ジョブが自動的に削除されます .....	8
バージョン3.0.1の新機能 .....	9
新しい構成表マネージャの役割 .....	9
通知API .....	9
HTTP/HTTPSの設定を変更する機能 .....	9
のJREのバージョンを定義する機能 Hubスキヤナ .....	9
新しい統合ページ .....	9
バージョン3.0の新機能 .....	10
ポリシー管理 .....	10
「ライセンスが見つかりません」ライセンス .....	10
RHELのRPMs .....	10
SwiftおよびObjective Cカバレッジ .....	10
<b>Chapter 2: 変更された機能 .....</b>	<b>11</b>
4.1.0で変更された機能 .....	11
新しいHubスキヤナ 2.0 - ベータ版 .....	11
APIの拡張機能 .....	11
ドキュメントコンテナ .....	11
LDAPのログ .....	11

PostgreSQLのバージョン .....	11
Hubの統合 .....	12
4. 0. 0で変更された機能 .....	12
通知ファイルレポートの改良点 .....	12
新しいHubモジュール .....	12
レポートデータベースの改良点 .....	12
Hubスキャナコマンドラインの改良点 .....	13
スキャンコンテナの改良点 .....	13
商用コンポーネント .....	13
基本認証のサポート .....	13
スキャンの改良点 .....	13
日本語 .....	13
Hubの統合 .....	13
ユーザビリティの向上 .....	14
3. 7. 0で変更された機能 .....	14
レポートデータベースの改良 .....	14
ポリシーラーの機能強化 .....	14
役割「コードスキャナ」 .....	14
APIの拡張機能 .....	14
Hubの統合 .....	14
日本語 .....	15
ユーザビリティの向上 .....	15
3. 6. 1で変更された機能 .....	15
Hubの統合 .....	15
3. 6. 0で変更された機能 .....	15
ポリシーに重大度レベルを追加 .....	15
Hubスキャナの改良 .....	15
ProtexBOMツール .....	15
読み取り専用のユーザーの役割 .....	15
APIの拡張機能 .....	16
Hubの統合 .....	16
Hub電子メールエクステンション .....	16
日本語 .....	16
ユーザビリティの向上 .....	16
3. 5で変更された機能 .....	17
Hubスキャナの改良 .....	17
APIの拡張機能 .....	17
Hubの統合 .....	17
Hub電子メールエクステンション .....	17
日本語 .....	17
ユーザビリティの向上 .....	17

3. 4. 2で変更された機能 .....	18
APIの拡張機能 .....	18
Hubの統合 .....	18
3. 4で変更された機能 .....	18
通知ファイルレポートの変更 .....	18
Hubスキャナ .....	18
追加の修正ステータス .....	18
ユーザーのグループを表示する機能 .....	19
スキャンサイズの制限 .....	19
APIの拡張機能 .....	19
スキャン履歴の保持 .....	19
Hubの統合 .....	19
ユーザビリティの向上 .....	19
日本語 .....	19
現在のナレッジベースの統計情報 .....	20
3. 3. 1で変更された機能 .....	20
Hubスキャナの改良点 .....	20
通知の拡張機能 .....	20
ポリシールールの追加オペランド .....	20
Hubの統合 .....	20
3. 3. 0で変更された機能 .....	21
ポリシールールの追加条件 .....	21
Hubスキャナの改良 .....	21
追加の使用法タイプ .....	21
コンポーネントのスキャンと識別に関する機能向上 .....	21
構成可能な管理コンソール .....	21
日本語 .....	21
ユーザビリティの向上 .....	21
3. 2. 0で変更された機能 .....	22
Hubスキャナの改良 .....	22
ユーザビリティの向上 .....	22
3. 1. 0で変更された機能 .....	22
ユーザビリティの向上 .....	22
日本語 .....	22
Hubの統合 .....	22
Black Duck Hub Scanner Containerのコマンドラインインターフェイス (CLI) ツール .....	22
3. 0で変更された機能 .....	23
Hubスキャナ (従来のコンポーネントスキャンCLIクライアント) の改善 .....	23
新しい使用法タイプ .....	23
ライセンス上のリスク .....	23
Jenkinsプラグイン .....	23

ユーザビリティの向上 .....	23
<b>Chapter 3: 修正された問題 .....</b>	<b>24</b>
4.1.0で修正された問題 .....	24
4.0.0で修正された問題 .....	24
3.7.1で修正された問題 .....	24
3.6.1で修正された問題 .....	25
3.6.0で修正された問題 .....	25
3.5.2で修正された問題 .....	25
3.5で修正された問題 .....	25
3.4.2で修正された問題 .....	25
3.4で修正された問題 .....	26
3.3.0で修正された問題 .....	26
3.2.0で修正された問題 .....	26
3.1.0で修正された問題 .....	26
3.0.1で修正された問題 .....	27
3.0で修正された問題 .....	27
<b>Chapter 4: 既知の問題と制限事項 .....</b>	<b>28</b>

## Hub ドキュメント

Hubのドキュメントは、オンラインヘルプと次のドキュメントで構成されています。

タイトル	ファイル	説明
リリースノート	release_notes_bd_hub.pdf	新機能と改善された機能、解決された問題、現在のリリースおよび以前のリリースの既知の問題に関する情報が記載されています。
インストールガイド	hub_install.pdf	Hubのインストールとアップグレードに関する情報が記載されています。
使用する前に	hub_getting_started.pdf	初めて使用するユーザーにHubの使用法に関する情報を提供します。
スキャンベストプラクティス	hub_scanning_best_practices.pdf	スキャンのベストプラクティスについて説明します。
Hub SDKを使用する前に	getting_started_hub_sdk.pdf	概要およびサンプルのユースケースが記載されています。
レポートデータベース	report_db_bd_hub.pdf	レポートデータベースの使用に関する情報が含まれています。

Hub統合のドキュメントは、[Confluence](#)にあります。

## トレーニング

Black Duck Academyは、すべてのBlack Duck教育ニーズに対応するワンストップリソースです。ここでは、オンライントレーニングコースやハウツービデオへの24時間365日のアクセスを利用できます。

新しいビデオやコースが毎月追加されます。

Black Duck Academyでは、以下のことを実行できます。

- 自分のペースで学習する。
- 希望する頻度でコースを復習する。
- 試験を受けて自分のスキルをテストする。
- 終了証明書を印刷して、成績を示す。

詳細については、<https://www.blackducksoftware.com/services/training>を参照してください



<https://academy.blackducksoftware.com>でコースのカタログを確認し、無料のコースをお試しください  
学習する準備ができたなら、<https://academy.blackducksoftware.com>でアカウントにログインしてください

## Customer Success Community

Black Duck Customer Successコミュニティは、カスタマサポート、ソリューション、および情報を提供する主要なオンラインリソースです。Customer Successコミュニティでは、すばやく簡単にサポートケースを開いて進行状況を監視したり、重要な製品情報を確認したり、ナレッジベースを検索したり、Black Duckを使用している他のお客様から知見を得たりできます。Customer Success Communityセンターには、共同作業に関する次の機能があります。

- つながる – サポートケースを開いて進行状況を監視するとともに、エンジニアリング担当や製品管理担当の支援が必要になる問題を監視します。
- 学ぶ – 他のBlack Duck製品ユーザーの知見とベストプラクティスを通じて、業界をリードするさまざまな企業から貴重な教訓を学ぶことができます。さらにCustomer Hubでは、最新の製品ニュースやBlack Duckの最新情報をすべて指先の操作で確認できます。これは、オープンソースの価値を組織内で最大限に高めるように当社の製品やサービスをより上手に活用するのに役立ちます。
- 解決する – Black Duckの専門家やナレッジベースが提供する豊富なコンテンツや製品知識にアクセスして、探している回答をすばやく簡単に得ることができます。
- 共有する – Black Duckのスタッフや他のお客様とのコラボレーションを通じて、クラウドソースソリューションに接続し、製品の方向性について考えを共有できます。

[Customer Successコミュニティにアクセスしましょう](#)。アカウントをお持ちでない場合、またはシステムにアクセスできない場合、[communityfeedback@blackducksoftware.com](mailto:communityfeedback@blackducksoftware.com)に電子メールを送信するか、電話で+1 781.891.5100（内線5）にお問い合わせください。 5.

Black Duckサポートとやり取りする方法については、<https://www.blackducksoftware.com/support/contact-support>を参照してください。

## バージョン4.1.0の新機能

### Kubernetesのサポート

Hubバージョン4.1.0では、Kubernetesがサポートされます。詳細については、Black Duckサポートにお問い合わせ ください。

## バージョン4.0.0の新機能

### 概要ダッシュボード

新しい概要ダッシュボードがHubに追加されました。このダッシュボードから、表示する権限があるプロジェクト全体の健全性を確認し、問題のある領域を確かめることができます。このダッシュボードを使用するとビジネスに不可欠な情報を表示できるので、注意する必要がある領域をすばやく評価することができます。

### 外部のPostgreSQLデータベース

Hubでは、外部PostgreSQLデータベースとしてAmazon Relational Database Service (RDS) を使用できるようになりました。

### 修正ガイドンス - ベータ版

Hubで新しいベータ機能を使用できるようになりました。構成表内の、脆弱性のあるコンポーネント向けに、Hubでは、利用可能な他のコンポーネントバージョンに関するガイドンス、および構成表で使用されているコンポーネントバージョンに影響を与えるセキュリティ脆弱性を修正するバージョンがあるかどうかに関するガイドンスが提供されます。この情報を使用して、セキュリティ脆弱性を修正する方法を決定することができます。

### クロスサイトリクエストフォージェリ

Hubバージョン4.1.0では、クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) 試行に対するセキュリティが向上しました。

### シングルサインオンのサポートを実現するためのSAML

Hubでは、Multi-Factor Authentication (MFA) 、シングルサインオン (SSO) 、および他の機能を使用するためのSecurity Assertion Markup Language (SAML) 認証プロトコルがサポートされるようになります。

ました。

## ウェブサーバーの構成設定

次のウェブサーバー設定を行うことができます。

- ホストポート
- Ipv4/ipv6

## デフォルトのユーザーランディングページ

目的のダッシュボードをすばやく表示するため、ログイン時に表示されるダッシュボードページは、前回ログアウトする前に最後に表示したメインダッシュボード（プロジェクト、コンポーネント、セキュリティ、または概要）によって異なります。

## バージョン3.7.0の新機能

### 新しいHub Dockerアーキテクチャ

Hubの新しいアーキテクチャが利用可能になりました。この新しいアーキテクチャは、Hubの「Docker化」によって構成され、さまざまなコンポーネントをコンテナ化して、他のオーケストレーションツールで個々のコンテナをすべて管理できるようにします。このリリースでサポートされているオーケストレーションツールは次のとおりです。

- Docker Compose
- Docker Run
- Docker Swarm

このバージョンのHubは、新規インストールまたは、古いアーキテクチャで構成される前バージョンからのアップグレードとしてインストールできます。

Hub Dockerの画像は、Docker Store Black Duck (<https://hub.docker.com/u/blackducksoftware/>) リポジトリからダウンロードできます。

オーケストレーションファイルは、<https://github.com/blackducksoftware/hub/raw/master/archives/hub-docker-3.7.0.tar>にあります。

『Hubインストールガイド (Docker)』では、インストール、移行、およびアップグレードのプロセスについて説明します。

### 問題追跡機能

Hub UIでは、新しい[問題]タブを使用できます。このタブには、問題追跡製品による監視に応じて、プロジェクトバージョン関連の問題が表示されます。現在、この機能はHub-JIRAプラグイン（バージョン3.3.0以上）を使用してサポートされています。

## バージョン3.6.0の新機能

### 新しいHub Dockerアーキテクチャのベータ版

Hubの新しいアーキテクチャのベータ版が利用可能になりました。この新しいアーキテクチャは、Hubの「Docker化」によって構成され、さまざまなコンポーネントをコンテナ化して、Composeなどの他のオーケストレーションツールで個々のコンテナをすべて管理できるようにします。

このバージョンのHubは、新規インストールまたは、古いアーキテクチャで構成される前バージョンからのアップグレードとしてインストールできます。

Hub Dockerの画像は、Docker Store Black Duck (<https://hub.docker.com/u/blackducksoftware/>) リポジトリからダウンロードできます。

オーケストレーションファイルは、  
<https://github.com/blackducksoftware/hub/raw/master/archives/hub-docker-3.6.0.tar>にあります。

このアーカイブを取得するには、次のコマンドを実行します。

```
$ wget https://github.com/blackducksoftware/hub/raw/master/archives/hub-docker-3.6.0.tar
```

問題が発生した場合は、カスタマサポートに問い合わせてください。

### レポートデータベース

PostgreSQL レポートデータベース、bds\_hub\_reportが利用可能になりました。このデータベースは、Hubのインストールまたはアップグレード時に自動的に作成され、レポート作成目的で次のHubデータへのアクセスを提供します。

- プロジェクト
- プロジェクトバージョン
- コンポーネントバージョン
- コンポーネントライセンス

### 構成表表示のPDFファイルへの出力

UIに表示された構成表をPDFドキュメントとして出力できます。PDFファイルには、UIに表示されるものと同じような構成表が表示されます。セキュリティ、ライセンス、および運用リスクグラフがページの上部に表示され、コンポーネントとサブプロジェクトの情報が表に一覧表示されます。

構成表を印刷する前にフィルタにかけると、表示したいデータのみをPDFファイルに含めることができます。

### プロジェクトを構成表に追加する機能

他のアプリケーションで使用されているプロジェクトがある場合に、それらのプロジェクトを構成表に追加し、構成表にアプリケーション内の要素を正確に反映させることができるようになりました。アプリケーションの構成表にプロジェクトを追加することで、このアプリケーションと、脆弱性、ライセンス、運用リスクを含むすべての関連リスクの概要を表示できます。

## Docker化されたスキャンクライアント

Docker を実行していて、スキャンしたい Docker イメージがある場合に、新しいスクリプト、`scan.docker.sh` を使用できるようになりました。

このスクリプトは、Hub スキャナにバンドルされています。このスクリプトを取得するには、Hub UI の [ツール] ページの [Hub スキャナ] セクションでオペレーティングシステムを選択し、インストーラをダウンロードして、ファイルを解凍します。`scan.docker.sh` スクリプトは、`bin` ディレクトリにあります。

**Note:** Windows 用のスクリプトはありません。

このスクリプトは、イメージから `.tar` アーカイブを作成し、Hub スキャナを使用してイメージをスキャンし、スキャンを Hub にアップロードして、`.tar` アーカイブを削除します。

スクリプトを実行するには

```
./scan.docker.sh --image <imagename:version> Hub Scanner command line parameters
```

イメージバージョンは省略可能です。コマンドラインパラメータの詳細については、Hub スキャナヘルプを参照してください。

以下に例を示します。

```
./scan.docker.sh --image jetty:9.3.11-jre8-alpine --username sysadmin --host hostname --port 443 --scheme https
```

Docker は PATH 上に存在している必要があります。

**Note:** このスクリプトを実行するユーザーは、Docker グループのメンバーであるか（ベストプラクティス）、ルートユーザーであるか、`sudo` アクセス権を持っている必要があります。

## バージョン 3.5 の新機能

### 構成表へのコメントの追加

構成表の特定のコンポーネントバージョンにコメントを追加できるようになりました。たとえば、コメントを使用して、コンポーネントバージョンが無視された理由やポリシー違反が上書きされた理由を示すことができます。

### 構成表のレビューフラグ

構成表を編集できるどのユーザーも、構成表のコンポーネントバージョンにレビュー済みというフラグを付けることができるようになりました。この機能を使用して、コンポーネントバージョンが構成表に正しく含まれることを示すことができます。

### コードの場所の名前

Hub スキャナは、ホストとスキャンパスを使用する代わりに、コードの場所に一意の名前（エイリアス）を指定できるようになりました。これにより、複数のホスト/パスの組み合わせを 1 つの論理コードの場所にまとめることができます。

## 検出ソースの表示

Hubは、Maven/Gradleなどのビルド監視プラグインやRubyGemsなどのパッケージマネージャからの検出内容をレビューする機能を提供するようになりました。この情報は、[ソース]タブ（以前の名称は[ファイル]タブ）に表示されます。

## Oracle Enterprise Linux 7のサポート

Hubは、Oracle Enterprise Linuxバージョン7オペレーティングシステムをサポートするようになりました。

## バージョン3.4.2の新機能

### Hub電子メールエクステンション

Hubからの通知に基づいて電子メールを送信する機能を提供するHub電子メールエクステンションが、GitHubのウェブサイト（<https://github.com/blackducksoftware/hub-email-extension>）から入手できるようになりました。

### 新しいHubの統合

Artifactory用のHub統合プラグイン（バージョン1.0.1-RC）が、GitHubのウェブサイト（<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>）から入手できるようになりました。このプラグインにより、コンポーネントスキャンを実行し、Artifactoryジョブを通じてBlack Duck Hubでプロジェクトを作成できます。

## バージョン3.4の新機能

このリリースでは、次の機能が導入されています。

### 新しいOSS属性モジュール

新しいモジュールであるOSS属性モジュールがHubに追加されました。このモジュールにより、正確かつ適合しているオープンソース通知ファイル/レポートをプロジェクト/リリースレベルで作成するのに必要なデータを編集および維持できます。その後、通知ファイルをディストリビューションに含めるか文書に組み込んで、属性責務を果たすことができます。

OSS属性モジュールがある場合は、[通知ファイル]レポートに次の変更を行うことができます。

- コンポーネントバージョンを除外する
- 属性ステートメントを追加する
- ライセンステキストを編集する

### パッケージマネージャのサポート

Hubスキャナは、次のパッケージマネージャをサポートするようになりました。

- RubyGems
- npm

## Linuxディストリビューションのマッチングの向上

Black Duckは、CentOSのパッケージコンポーネントを追加することで、Linuxディストリビューションを処理するときのマッチング機能を強化しました。

## バージョン3.3.2の新機能

このリリースでは、次の機能が導入されています。

### 非Hubサーバーから提供されたウェブページからREST APIにアクセスする機能

非Hubサーバーから提供されたウェブページからREST APIにアクセスできるようにする新しいプロパティがHubに追加されました。

## バージョン3.3.1の新機能

このリリースでは、次の機能が導入されています。

### エクステンションのサポート

Hubが外部エクステンションをサポートするようになりました。

Hubの新しい管理UIを使用して追加し、またオプションとして、Hubで使用する外部エクステンションのグローバル設定やユーザー設定を構成できます。

### コードサイズ制限の通知

Hubは、コードサイズの制限値（ライセンス内で宣言）に近づいた時点で通知するようになりました。コードサイズ制限の80%以上になると、UIに通知が表示されます。

### APIの拡張機能

脆弱性APIセットが利用可能になりました。これらのAPIを使用すると、コンポーネント、コンポーネントバージョン、コンポーネントバージョンおよび取得元に対する脆弱性を探したり、特定の脆弱性レコードを探したりすることができます。

## バージョン3.3.0の新機能

このリリースでは、次の機能が導入されています。

### 通知ファイルレポート

通知ファイルレポートは、OSSコンポーネント、バージョン、および関連付けられているライセンステキストの一覧を提供します。このレポートを使って、プロジェクトリリース用の属性レポートを作成したり、構成表とライセンス情報を共有したりすることができます。

このレポートは、テキストファイルまたはHTML形式で使用できます。

### フィードバックサービス

将来のマッチを向上させる目的で、Black Duckナレッジベース（KB）機能の向上と改善を行うため、構成

表の調整（コンポーネント名、バージョン、取得元、取得元ID、ライセンスへの変更など）を自動的に収集するメカニズムを提供する、フィードバックサービスが導入されました。

**Note:** お客様を特定する情報はKBに送信されません。

フィードバックサービスはデフォルトで有効です。このサービスを無効にできます。

## MavenおよびGradleプロジェクトのサポート

Hubは、MavenおよびGradle Hubプラグインを介して作成された依存関係BOMをサポートするようになりました。

## APIの拡張機能

リンクされたデータ、役割、ユーザーグループ、およびユーザーの役割APIが使用できるようになりました。

## オペレーティングシステムに対するサポート

次のオペレーティングシステムに対するサポートを追加しました。

- CentOS 6.8.x
- Ubuntu 16.04.x

## Hubの統合

次のHubの統合がGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Hub Atlassian Configバージョン1.0.1以降
- Hub Gradleプラグインバージョン2.0.6以降
- Hub Mavenプラグインバージョン1.0.3以降

## バージョン3.2.0の新機能

このリリースでは、次の機能が導入されています。

### サブコンポーネントの検出

Hubのスキャン機能が拡張され、使用中のオープンソースコンポーネント内に含まれているサブコンポーネントを検出する機能が追加されました。たとえば、Struts（最上位の親コンポーネント）がcommons.collections（第2レベルのコンポーネント）を使用し、commons.collectionsにはcommons.io（第3レベルのコンポーネント）が含まれる場合を考えます。

構成表には、これらのサブコンポーネントを含む、すべてのコンポーネントの完全なフラットリストが含まれます。構成表に表示されるリスクには、すべてのサブコンポーネントの脆弱性が含まれます。

### 脆弱性により影響を受けるファイルを表示する機能

脆弱性により影響を受ける、プロジェクトのファイルを表示できるようになりました。[脆弱性の詳細]



ページで、[関連ファイルの表示] オプションを選択します。これによって、[ファイル] タブが開き、この脆弱性により影響を受けるファイルを表示するフィルタがかけられます。

## Hubの統合

次のHubの統合がGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Bambooプラグインバージョン2.0.0以降
- TFSプラグインバージョン0.1.0以降

## バージョン3.1.0の新機能

このリリースでは、次の機能が導入されています。

### 構成表のパフォーマンスを改善

Hubのパフォーマンスは、Protex BOMをインポートするときのパフォーマンスとともに改善され、Hub UIの応答時間が短縮されました。

### 永続的な構成表の編集

Hubでは、コンポーネントへの編集をプロジェクトの特定のバージョンに適用するかどうか、または編集が永続的な場合、コンポーネントへの編集をプロジェクトのすべてのバージョンに適用し、また同じコードの場所で追加スキャンが行われたときに将来のバージョンに適用するかどうかを選択できるようになりました。

### Protex構成表のインポートログ

Protex構成表インポートログを使用すると、Protex BOMをHubにインポートした結果を表示できます。これには、HubにマッピングされたProtexコンポーネントとライセンスの一覧が記載され、Protex KBとHub KBの間でマッピングできなかったアイテムに関する詳細が示されます。

### Hubスキャナの証明書ベース認証のサポート

Hubスキャナのクライアント証明書（署名入りのキーペアとも呼ばれます）を使用して、TLS対応サーバーへの認証を行う機能がサポートされました。

### インストーラパッケージにドキュメントが含まれます

インストーラパッケージにインストールガイドとリリースノートが追加されました。

### ジョブが自動的に削除されます

30日より古いジョブはすべて削除されるようになりました。

システム管理者の役割を持っているユーザーは、[管理] > [ジョブ] を選択して[ジョブ] ページにアクセスすることで、ジョブの一覧を表示できます。

## バージョン3.0.1の新機能

### 新しい構成表マネージャの役割

構成表マネージャの役割を使用すると、ユーザーは自分がメンバーであるプロジェクトまたはプロジェクトグループの権限を持っているプロジェクトの構成表を変更できます。これには、

- ポリシー違反の上書き（ポリシールールで、手動の上書きが許可されている場合）や上書きの削除。
- セキュリティ脆弱性の修正。
- [ファイルビュー] ページを使用したコンポーネントの編集や調整のリセット。

**Note:** 3.0.1より前のリリースで作成された既存のアクティブユーザーはすべて、構成表マネージャの役割を持っています。

### 通知API

通知APIセットが利用可能になりました。1つ以上のプロジェクトに含まれるコンポーネントでセキュリティ脆弱性が公開または更新された場合やコンポーネントがポリシーに違反した場合などに、これらのAPIを使用して、通知情報にアクセスします。組織は、この情報を使用して他のプラットフォームと統合できます。

**Note:** 通知はHubのライセンス機能になりました。デフォルトでは有効ではありません。

### HTTP/HTTPSの設定を変更する機能

新しいスクリプトであるchangeHubHttpSettings.shが追加されました。これは、Hubをインストールするときに当初構成されたHTTP/HTTPSの接続設定を変更する機能を提供するのです。これには、HTTPからHTTPSへの接続の変更、HTTPSからHTTPへの接続の変更、ポート番号の変更、（HTTPS接続の場合の）PKCS12キーストアファイルの入れ替えが含まれます。

### のJREのバージョンを定義する機能 Hubスキャナ

Hubスキャナのダウンロードに付属するJava Runtime Environment (JRE) を使用しない場合は、Hubスキャナで使用する必要があるJREのインストール済みバージョンを定義する新しい環境変数であるBDS\_JAVA\_HOMEを構成できるようになりました。

### 新しい統合ページ

[ツール] ページに、[Black Duckオープンソース統合] リンクが追加されました。このリンクをクリックすると、GitHub上の新しいBlack Duck統合ページが開きます。このページでは、オープンソース統合のダウンロードとドキュメントへのアクセスが提供されます。


**Note:** TeamCityのHubプラグインのダウンロードとドキュメントは「Hubツールのダウンロードと使用」ヘルプページからアクセスできます。

## バージョン3.0の新機能

### ポリシー管理

Hubには、オープンソースコンポーネントの使用を管理するルールを作成できるポリシー管理機能が用意されています。ポリシールールを使用して、オープンソースの使用法は例外ベースで管理されます（オープンソースコンポーネントが、使用法を許可するポリシー要件を満たしている場合）。ポリシールールを満たしていないオープンソースコンポーネント/バージョンにはフラグが設定され、コンポーネントの使用法を特定のアプリケーションで許可する必要があるかどうかを検証して判断できます。

ポリシー管理の機能：

- 新しい[ポリシー管理] ページには、すべてのポリシールールが一覧表示されます。展開式のメニューアイコン（）をクリックして、[ポリシー管理]を選択することでこのページを表示します。
- 新しい役割であるポリシーマネージャがHubに追加されました。この役割により、ユーザーがグローバルポリシールールを管理できます。
- ポリシーマネージャは、複数の条件を含めることができる複数のポリシールールを作成して、一般的または非常に限定的なグローバルポリシールールを作成する柔軟性を得ることができます。
- Hubには、デフォルトで無効になっている3つのデフォルトポリシールールがあります。
- ポリシールールは上書き可能です。または上書きを削除することもできます。
- プロジェクトバージョンレポートは、ポリシー違反情報を含んでいます。
- [構成表] ページの高度なフィルタは、フィルタとしてポリシー違反を含んでいるので、コンポーネントのポリシーステータスを簡単に表示できます。

### 「ライセンスが見つかりません」ライセンス

新しいライセンスタイプ「ライセンスが見つかりません」がHubに追加されました。このライセンスは、Black Duckによる調査にもかかわらず、宣言されたライセンスがコンポーネントで見つからなかったことを示しています。

### RHELのRPMs

Black Duckナレッジベースは、RHELのRPMsを含めるように拡張されました。

### SwiftおよびObjective Cカバレッジ

Black Duckナレッジベースは、自社のSwift、およびCocoapodsからのObjective Cカバレッジを拡張しました。

### 4.1.0で変更された機能

#### 新しいHubスキャナ 2.0 - ベータ版

Hub UIの[ツール]ページから、ベータ版のHubスキャナ 2.0を入手できるようになりました。

#### APIの拡張機能

REST APIに、次の改良が加えられました。

- パブリックな構成表APIにレビューステータスが追加されました。
- パブリックなコンポーネント構成表APIにポリシーステータスが追加されました。
- user-group-rest-server APIが改良され、役割を追加、編集、および削除できるようになりました。
- REST API (project-assignment-rest-server) が追加され、プロジェクトからユーザーとユーザーグループを割り当てたり削除したりできるようになりました。
- component-version-rest-server およびaggregate-bom-rest-serverの各APIが改良され、コンポーネントに実際のライセンステキストを提供できるようになりました。

#### ドキュメントコンテナ

Hubのドキュメントがコンテナで管理されるようになりました。このため、ドキュメントを迅速に更新することができます。

#### LDAPのログ

Hubのログファイルに、LDAPの有効/無効が示されるようになりました。

#### PostgreSQLのバージョン

Hubバージョン4.1.0の場合、現在サポートされているPostgreSQLのバージョンは9.4.11です。これは、HubのPostgreSQLコンテナに付属のバージョンです。独自のPostgreSQLインスタンスの実行を選択した場合、PostgreSQLバージョン9.4.11を使用して、Hubバージョン4.1.0との互換性を確保する必要があります。

4.1.0以降のバージョンのHubを使用する場合、アップグレードする前に、更新後のPostgreSQLバージョンの要件があるかどうかを『*Black Duck Hub* リリースノート』で確認してください。

## Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト

(<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Hub Artifactoryプラグイン
- Hub Bambooプラグイン
- Hub Gradleプラグイン
- Hub Jenkinsプラグイン
- Hub JIRAプラグイン
- Hub Mavenプラグイン
- Hub NuGetプラグイン
- Hub PIPプラグイン
- Hub Team Cityプラグイン
- Hub Team City Foundation Serverプラグイン
- Hub Eclipseプラグイン
- Hub Visual Studioプラグイン
- Hub電子メールエクステンション
- Hub Docker Inspector
- Hub SBTプラグイン

**Note:** 最新リリースバージョン番号を含むHubの統合製品の詳細については、Black Duck統合ドキュメントのWebサイト (<https://blackducksoftware.atlassian.net/wiki/spaces/INTDOCS/overview>) を参照してください。

## 4.0.0で変更された機能

### 通知ファイルレポートの改良点

通知ファイルレポートの作成を容易にするために、Hubでは、通常は各OSSコンポーネントで変更されるライセンスの実際のライセンステキストにレポートが表示されるようになりました。現在、Hubでは、MIT、さまざまなBSD、およびナレッジベースのトップコンポーネントであるISCライセンスについてのみ、実際のライセンステキストがお客様の使用法に基づいて表示されます。

### 新しいHubモジュール

新しいモジュールであるOSS通知レポートが利用可能になり、既存のOSS属性モジュールが変更されました。通知ファイルレポートは、ライセンスコンプライアンス機能の一部である、この新しいOSS通知レポートモジュールに含まれています。OSS通知レポートモジュールがない場合、通知ファイルレポートは使用できなくなります。

### レポートデータベースの改良点

レポートデータベースから、ポリシーの承認ステータス、使用法、およびコンポーネントのマッチタイプに

アクセスできるようになりました。

## Hubスキャナコマンドラインの改良点

- 対応するスキャンコンテナ (.json) ファイルがない場合でも、`dryRunReadFile`パラメータを使用して、構成表 (.jsonld) ファイルを個別にアップロードできるようになりました。
- `password`パラメータはサポート対象外になりました。`password`パラメータに引数を指定した場合、スキャンは完了しません。代わりに、`BD_HUB_PASSWORD`環境変数とHubサーバーパスワードを設定する必要があります。

## スキャンコンテナの改良点

Docker イメージ (`scan.docker.sh`) のスキャンに使用するスクリプトが改良され、パッケージマネージャレベルでの検査が可能になりました。また、自動更新機能もスクリプトに追加されているため、このスクリプトの最新バージョンを簡単に取得できます。

**Note:** このスクリプトで使用可能になった自動更新機能を利用するには、ホホワイトリストまたは他の手段でgithub.comドメイン (`blackducksoftware.github.com`) に接続できることを確認する必要があります。

## 商用コンポーネント

商用コンポーネントが検索結果で識別されるようになりました。

## 基本認証のサポート

Hubで、プロキシの基本認証がサポートされるようになりました。

## スキャンの改良点

拡張マッチングアルゴリズムと新しいBlack Duck KBデータエレメントが追加され、マッチングの精度が向上し、誤検出が少なくなりました。この機能は、多くのタイプのスキャンに適用されますが、Debianパッケージで特に有効です。

## 日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン3.7.0が日本語にローカライズされました。

## Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Artifactoryプラグインバージョン3.0.0以降
- Bambooプラグインバージョン3.1.0以降
- Gradleプラグインバージョン5.0.1以降
- Jenkinsプラグインバージョン2.2.1以降
- JIRAプラグインバージョン3.3.1以降
- Mavenプラグインバージョン2.0.1以降

- NuGetプラグインバージョン1.1.0以降
- Pipプラグインバージョン1.1.0以降
- Team Cityプラグインバージョン3.1.0以降

## ユーザビリティの向上

Hubでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。

## 3.7.0で変更された機能

### レポートデータベースの改良

レポートデータベースでは、コンポーネントの脆弱性データにアクセスできるようになりました。レポートデータベースには、コンポーネントバージョンが無視されるかどうかに関するデータも含まれます。

### ポリシールールの機能強化

コンポーネントバージョンのポリシールールについて、[等しくない]と[含まない]演算子が追加されました。特定のバージョンのコンポーネントが使用されていない場合にポリシー違反をトリガーするポリシールールを作成するなど、これらの演算子により、ホワイトリストポリシールールをより簡単に作成できるようになりました。

### 役割「コードスキャナ」

役割「コードスキャナ」が変更されました。この役割のみを持っているユーザーは、コードの場所のスキャンに関連付けられている構成表を参照できなくなりました。

### APIの拡張機能

REST APIに、次の改良が加えられました。

- コンポーネントバージョンの問題を追加、更新、および削除するためのREST API (bom-component-issue-rest-server) を追加しました。

### Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト

(<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Eclipseプラグインバージョン1.0.0以降
- Gradleプラグインバージョン5.0.0以降
- JIRAプラグインバージョン3.3.0以降
- NuGetプラグインバージョン1.0.0以降
- Pipプラグインバージョン1.0.0以降
- SBTプラグインバージョン1.1.0以降
- Team Cityプラグインバージョン3.0.2以降
- Visual Studioプラグインバージョン1.0.0以降

## 日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン3.6.0が日本語にローカライズされました。

## ユーザビリティの向上

Hubでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。

### 3.6.1で変更された機能

#### Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Artifactoryプラグインバージョン2.1.0以降
- Bambooプラグインバージョン3.0.0以降
- Gradleプラグインバージョン4.0.0以降
- JIRAプラグインバージョン3.2.0以降
- Mavenプラグインバージョン2.0.0以降
- TFSプラグインバージョン2.1.0以降

### 3.6.0で変更された機能

#### ポリシーに重大度レベルを追加

ポリシーに重大度レベルを追加できるようになりました。有効な値は、[些細]、[小]、[大]、[重大]、[ブロッカー]です。

このオプションをビルド統合とともに使用し、ポリシー違反が発生したときに何が起きるかを示すことができます。たとえば、重大度レベルが[ブロッカー]のすべてのポリシー違反はビルドに失敗します。

#### Hubスキャナの改良

コマンドラインバージョンのHubスキャナに次のパラメータが追加されました。

- `--insecure`。TLS検証エラーを無視し、HubスキャナがHubサーバーに接続できるようにします。
- `--no-prompt`。Hubスキャナを非対話モードで実行します。新しいBD\_HUB\_NO\_PROMPT環境変数を設定して、非対話モードを有効にすることができます。

#### ProtexBOMツール

Protex BOMツールでエクスポートできるのがコンポーネントとライセンスデータのみになりました。リリース3.6.0時点では、これがツールのデフォルト出力になります。Protexコードツリーとマッチの詳細を含めるには新しい`--include-files`パラメータを使用してください。

#### 読み取り専用のユーザーの役割

読み取り専用の役割が変更され、この役割を持つユーザーは、プロジェクトを作成したり、[コードの場



所] ページにアクセスしたりすることができなくなりました。

## APIの拡張機能

REST APIに、次の機能強化が施されました。

- コンポーネントおよびコンポーネントバージョンのプロジェクトのリストを検索するaggregate-bom-rest-server APIが改善されました。
- 依存関係データを提供するcomponent-rest-server APIが改善されました。
- コンポーネントの構成表を追加、編集、削除するbom-component-comment-rest-server APIが改善されました。コンポーネントバージョンは不要です。
- すべてのライセンスのリストを取得するlicense-rest-server APIが改善されました。
- policy-rule-rest-server APIの新バージョンV2が追加されました。ポリシーを作成、更新、削除するpolicy-rule-rest-server APIが改善されました。
- コンポーネントのBlack Duckナレッジベースを検索するREST API、search-rest-serverが追加されました。
- ユーザーのAPIのリストを提供するREST API、url-directory-rest-serverが追加されました。

## Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Artifactoryプラグインバージョン2.0.2以降
- Atlassian Configプラグインバージョン2.0.0以降
- Bambooプラグインバージョン3.0.0以降
- Jenkinsプラグインバージョン2.1.1以降
- JIRAプラグインバージョン3.1.1以降
- TeamCityプラグインバージョン3.0.1以降
- TFSプラグインバージョン2.0.0以降

## Hub電子メールエクステンション

Hubからの通知に基づいて電子メールを送信する機能を提供するHub電子メールエクステンションの新しいバージョン (1.1.1) が、GitHubのウェブサイト (<https://github.com/blackducksoftware/hub-email-extension>) から入手できるようになりました。

## 日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン3.5.1が日本語にローカライズされました。

## ユーザビリティの向上

Hubでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性が向上し、使いやすさが改善されています。

## 3.5で変更された機能

### Hubスキャナの改良

Hubスキャナ GUIが、除外されたディレクトリをサポートするようになりました。

### APIの拡張機能

REST APIに、次の機能強化が施されました。

- 構成表のコメントを追加、編集、および削除するためのREST API (bom-component-comment-rest-server) を追加しました。
- component-version-rest-server API経由でコンポーネントとバージョンがリクエストされたときに、応答内のオリジンとオリジンIDを取得する機能を追加しました。
- aggregate-bom-rest-server応答に使用法フィールドを追加しました。
- APIを使用してグローバル通知をリクエストするのに、システム管理者の役割が必要になりました。

### Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト

(<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Artifactoryプラグインバージョン1.2.0以降
- Gradleプラグインバージョン3.4.1以降
- JIRAプラグインバージョン3.0.2以降
- Mavenプラグインバージョン1.4.0以降
- TeamCityプラグインバージョン2.0.0以降
- TFSプラグインバージョン1.0.0以降

### Hub電子メールエクステンション

Hubからの通知に基づいて電子メールを送信する機能を提供するHub電子メールエクステンションの新しいバージョン (1.1.0) が、GitHubのウェブサイト (<https://github.com/blackducksoftware/hub-email-extension>) から入手できるようになりました。

### 日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン3.4.1が日本語にローカライズされました。

### ユーザビリティの向上

Hubでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。

## 3. 4. 2で変更された機能

### APIの拡張機能

REST APIに、次の機能強化が施されました。

- 特定のコードの場所またはすべてのコードの場所を削除するためのREST API (composite-code-location-rest-server) を追加しました。
- プロジェクト/バージョンREST APIの応答に、マップされたコードの場所のリンクを追加しました。
- 構成表コンポーネントを見つけるためのREST API (aggregate-bom-rest-server) を追加しました。
- 最大500件のプロジェクトを返すことができるように、プロジェクト検索結果の数を増やしました。

### Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Atlassian Configプラグインバージョン1.1.0以降
- Bambooプラグイン2.1.0以降
- Gradleプラグインバージョン3.1.0以降
- Jenkinsプラグインバージョン2.0.0以降
- JIRAプラグインバージョン3.0.0以降
- Mavenプラグインバージョン1.2.0以降

## 3. 4で変更された機能

最後のリリースから変更されている機能は次のとおりです。

### 通知ファイルレポートの変更

新しいOSS属性モジュールを持っているユーザーは、[通知ファイル] レポートに次の変更を行うことができます。

- レポートからコンポーネントを除外する。
- 属性ステートメントを追加する。
- ライセンステキストを編集する。

### Hubスキャナ

- Hubスキャナからのエラーメッセージに、問題の原因と考えられる解決策に関する詳細情報が表示されるようになりました。
- のGUIのHubスキャナファイル名が`scan.GUI.sh`に変更されました。

### 追加の修正ステータス

Hubに[重複] 修正ステータスが追加されました。この修正ステータスは、CVEが`VulnDBI`に關係している場合

に表示されます。そのCVEは新しい脆弱性として表示され、VulnDBは修正ステータスが[重複]の脆弱性として表示されます。

## ユーザーのグループを表示する機能

システム管理者は、[ユーザー名]ページを使用して、ユーザーが属しているグループを表示できるようになりました。ユーザーは、[マイプロフィール]ページを使用して、自分が属しているグループを確認できるようになりました。

## スキャンサイズの制限

スキャンサイズに制限ができました。スキャンサイズ制限（通常は5GB）を超えると、エラーメッセージが表示されます。

## APIの拡張機能

- ユーザー情報を増やすために、user-filters-rest-server APIが追加され、user-group-rest-serverおよびuser-rest-server APIに機能強化が施されました。
- ログインするためのurlパラメータとしてユーザー名とパスワードを送信することはサポートされなくなりました。ユーザー名とパスワードはリクエストの本文に含めることが必要になりました。

## スキャン履歴の保持

メモリ要件を下げられるように、Hubが、現在のスキャンと1つのバックアップのみを保存するようになりました。この変更は、スキャンが表示される[コードの場所 <名前>]ページの[スキャン]セクションで確認できます。追加のバックアップスキャンを保存する必要がある場合は、カスタマサポートに連絡してください。

## Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト

(<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Atlassian Configプラグインバージョン1.0.2以降
- Bambooプラグイン2.0.1以降
- Gradleプラグインバージョン3.0.0以降
- Jenkinsプラグインバージョン1.5.4以降
- Mavenプラグインバージョン1.1.0以降
- TFSプラグインバージョン0.4.0以降

## ユーザビリティの向上

Hubでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。

## 日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン3.3.1が日本語にローカライズされました。

## 現在のナレッジベースの統計情報

バージョン3.4時点:

- 2,036,044個の一意のコンポーネント
- 2,491個の一意のライセンス
- 積極的に追跡される79,217個の脆弱性
- 530,047,513,237行のコード

## 3.3.1で変更された機能

最後のリリースから変更されている機能は次のとおりです。

### Hubスキャナの改良点

Hubスキャナでは、スキャン対象からディレクトリを除外する追加の方法が提供されています。

- `$HOME/config/blackduck`ディレクトリに配置される`ignore`ファイルを作成する。

このファイルを使用して、除外されるディレクトリをルートを基準に一覧表示します。このオプションを使用すると、1つの場所を使用して、除外する必要のあるすべてのディレクトリを一覧表示できます。

- どのディレクトリにも配置できる個々の`.bdignore`ファイルを作成する。

このファイルを使用して、`.bdignore`ファイルが配置されたディレクトリ内の除外するサブディレクトリを一覧表示します。除外するサブディレクトリを含んだディレクトリごとに`.bdignore`ファイルを作成する必要があります。

いずれの方法も、Hubスキャナ GUIからでもコマンドラインからでも使用できます。

### 通知の拡張機能

追加の脆弱性コンテンツを含むように、通知が拡張されました。

Black Duck KB更新ジョブの範囲外で、脆弱性を削除した場合、および脆弱性を追加または更新した場合、追加の脆弱性コンテンツ（サポート通知）を含むように、通知APIフレームワークも拡張されました。

### ポリシーールの追加オペランド

サポートされていないライセンスを使用したときに違反となるポリシーを簡単に作成できるように、[ポリシーールの作成]ダイアログボックスで、「等しくない」オペランドがライセンス条件に追加されました。

### Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト

(<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Jenkinsプラグインバージョン1.5.3以降
- TeamCityプラグインバージョン1.4.2以降

- Hub Gradleプラグインバージョン2.0.12以降
- Hub Mavenプラグインバージョン1.0.4以降

### 3.3.0で変更された機能

最後のリリースから変更されている機能は次のとおりです。

#### ポリシールールの追加条件

プロジェクト名やプロジェクトタグの条件を含んでいるポリシールールを作成できるようになりました。

#### Hubスキャナの改良

- Hubスキャナは、スキャンから単一または複数のディレクトリを除外できるようになりました。  
--excludeパラメータを使うと、単一のディレクトリを除外できます。また--exclude-fromパラメータを使うと、スキャンから除外するディレクトリを一覧表示したファイルを生成できます。
- HubスキャナのWindowsダウンロードに、CreateGUIShortcut.vbsというスクリプトが含まれるようになりました。このスクリプトを使用すると、WindowsデスクトップにHubスキャナへのショートカットを作成できます。

#### 追加の使用法タイプ

Hubに以下の使用法タイプが追加されました。

- **標準の実装**。この使用法は、標準に従って実装している場合を対象としています。たとえば、プロジェクトとともに出荷されるJava Spec Requestなどがあります。
- **分離した製品**。この使用法は、統合の弱いコンポーネントを対象としています。作業内容はコンポーネントから取得されていません。分離した製品と見なされるようにするには、アプリケーションに独自の実行可能ファイルが含まれていて、コンポーネントとアプリケーションがリンクされていない必要があります。例としては、配布メディアに無償のAcrobat PDFビューアを含めている場合などがあります。

プロジェクト配布にかかわらず、新しい使用法タイプはどちらも、ライセンスのリスクはありません。

#### コンポーネントのスキャンと識別に関する機能向上

このリリースでは、自己拡張アーカイブとlibファイルアーカイブのスキャン機能が追加されました。

#### 構成可能な管理コンソール

Hub管理コンソール用管理ユーザーのパスワードを変更したり、パスワードを元の値にリセットしたりできるようになりました。

#### 日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン3.2が日本語にローカライズされました。

#### ユーザビリティの向上

Hubでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いや

すさを改善しています。

## 3.2.0で変更された機能

最後のリリースから変更されている機能は次のとおりです。

### Hubスキャナの改良

- WindowsバージョンのHubスキャナ GUIでは、Hubスキャナの実行時にコマンドウィンドウが表示されなくなりました。
- Hubスキャナで、新しいパラメータである`context`が追加されました。これを使用して、追加URL コンテキストを指定できます。たとえば、プロキシサーバー/ロードバランサ構成でX-Forwarded-Prefix ヘッダーが指定される場合は、このパラメータを使用します。

### ユーザビリティの向上

[構成表] ページと[ファイル] タブのユーザビリティが向上しました。また、脆弱性通知のためのUIで、追加情報を提供するように拡張されています。

## 3.1.0で変更された機能

最後のリリースから変更されている機能は次のとおりです。

### ユーザビリティの向上

Hubでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。これには、[構成表] ページと[ファイル] タブのユーザビリティの大幅な向上が含まれ、構成表のレビュープロセスで生産性とユーザビリティが向上しています。

### 日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのHub 3.2バージョンが日本語にローカライズされました。

### Hubの統合

次のHubの統合の新しいバージョンがGitHub Webサイト

(<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Jenkins プラグインバージョン1.5.2以降
- TeamCity プラグインバージョン1.4.1以降

### Black Duck Hub Scanner Containerのコマンドラインインターフェイス (CLI) ツール

Black Duck Hub Scanner Containerのコマンドラインインターフェイス (CLI) ツールは現在、<https://hub.docker.com>からのみ入手可能です。

## 3.0で変更された機能

### Hubスキャナ（従来のコンポーネントスキャンCLIクライアント）の改善

- HubスキャナのダウンロードにJava Runtime Environment (JRE) が含まれるようになりました。ダウンロードはLinux、Mac OS X、およびWindowsでご利用いただけます。したがって、JREやJAVA\_HOME環境変数を構成する必要はなくなりました。
- Hubスキャナの新しいグラフィカルユーザーインターフェイスを利用できるようになりました。
- `statusWriteDir`パラメータを追加しました。このパラメータを使用して、完全なスキャンステータス情報を含んでいるJSONファイルを出力します。

### 新しい使用法タイプ


Hubには、現在次の4つの使用法タイプがあります。

- 動的にリンク。DLLや.jarファイルなど、動的にリンクされ、中程度に統合されているコンポーネント。
- 静的にリンク。静的にリンクされ、プロジェクトとともに配布される、密接に統合されているコンポーネント。
- オープンソース。.javaや.cppファイルなどのソースコード。
- Dev. Tool/除外。コンポーネントは、リリースされたプロジェクトに含まれません。たとえば、構築、開発、またはテストのため社内的に使用されるコンポーネントです。例として、ユニットテスト、IDEファイル、コンパイラがあります。

以前のリリースからのコンポーネントの場合：

- [使用済み]使用法タイプを持っていたコンポーネントは、[動的にリンク]使用法タイプを持つようになりました。
- [不使用]使用法タイプを持っていたコンポーネントは、[Dev. Tool/除外]使用法タイプを持つようになりました。

### ライセンス上のリスク

- ライセンス上のリスクは、新しい使用法タイプを組み込むために再計算されました。
- Hubは、低リスクのライセンス上のリスクを計算するようになりました。[構成表]ページには、[ライセンス]カラムに灰色のフラグ（）が表示され、低リスクのライセンス上のリスクが示されます。

### Jenkinsプラグイン

バージョン1.4.0のHub Jenkinsプラグインが利用可能になりました。プラグインとドキュメントは、ヘルプトピック「Hubツールのダウンロードと使用」からダウンロードできます。

### ユーザビリティの向上

Hubでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。



### 4.1.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 古いバージョンのGentOSとの間に互換性がない可能性があるため、Docker コンテナが開始されないという問題を修正しました。
- 構成表 (BOM) のインポート/エクスポートツールを使用して構成表をインポートする際に障害を引き起こしていた可能性がある問題を修正しました。
- JSONの出力で¥文字が正しくエンコードされないというREST APIの問題を修正しました。
- Hubユーザーインターフェイスでマッチタイプに加えた変更がレポートに反映されないことがあるという問題を修正しました。
- 中国語の文字を含む構成表パスが失敗することがあるという問題を修正しました。

### 4.0.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 通知レポートファイルのテキストバージョンの書式に関する問題を修正しました。
- コンポーネント名に不正なカラムタイトルが表示されるというHubレポートの問題を修正しました。
- 独自のパスにスペースが含まれている場合にHubスキャナが失敗するという問題を修正しました。
- Windowsでのスキャン時に、除外パターンが機能するようになりました。
- Hubスキャナ.jsonldファイルに<%=moduleName%>タグが挿入されなくなりました。
- カスタム証明書の作成に使用するスクリプトによって、証明書の設定変更の保存に使用するコンテナの永続的なイメージが作成されないという問題を修正しました。

### 3.7.1で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- レポートデータベースで転送ジョブが失敗するという問題を修正しました。
- ユーザビリティに関する問題を修正しました。このため、Mac上で、リンクを選択して新しいタブでリンクを開く際にCMDキーを使用できるようになりました。
- [登録] ページに正しいコードベースの制限が表示されるようになりました。

### 3.6.1で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- Hubでは、無視されたコンポーネントのマッチが[ソース]タブに表示されるようになりました。
- 大きな構成表の場合に脆弱性レポートを生成できない問題を修正しました。
- 通知フィルタが更新されました。
- LDAPユーザーがHubにログインできなかった問題を修正しました。

### 3.6.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 混乱を避けるため、既存のデータベースの場所に関するアップグレードスクリプトのテキストが書き直されました。
- コードスキャナの役割のみを持つユーザーがスキャンを実行できない問題が修正されました。
- 元のソート順序を変更した場合に、プロジェクトバージョンの削除後、プロジェクトバージョンページが元のソート順序に戻らなくなる問題が修正されました。
- Node.jsアプリケーションをスキャンするとエラーが発生するHubスキャナの問題が修正されました。

### 3.5.2で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 電子メールエクステンションが構成されたHubの、ユーザーが電子メールを受信せず、HUB UIの[ユーザーの管理]セクションからユーザー情報にアクセスできない問題が修正されました。

### 3.5で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- .0を含むプロジェクトのバージョンを追加した場合に発生した問題を修正しました。
- 複数のライセンスがある構成表コンポーネントが、CSV形式のプロジェクトバージョンレポートで正しく表示されるようになりました。

### 3.4.2で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 構成表の作成が非常に遅いという問題を修正しました。

## 3.4で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 構成表の作成が非常に遅いという問題を修正しました。
- 大規模なプロジェクトで関連ファイルを表示するときのHubのパフォーマンスを向上させました。
- 未指定のバージョンがあるコンポーネントの[ユーザー数]リンクを選択しても、404ステータスコードが表示されなくなりました。
- 「マッチジョブのリクエスト」または「構成表を作成しています」状態のままになるコンポーネントスキャンの問題を修正しました。
- アーカイブされたバージョンのプロジェクトを修正できるという問題を修正しました。
- Docker内でのHubのアップグレード中にプロキシ設定が維持されないという問題を修正しました。
- Protex構成表をインポートすると、永続的な「スキャンデータを保存しています」ステータスになるという問題を修正しました。

## 3.3.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- Hubスキャナは、Smali/Baksmaliディレクトリのスキャンをサポートするようになりました。
- プロキシサーバーを介してHubを登録する場合に発生した問題が修正されています。
- Hubのアップグレード時、スタートアップバックグラウンドプロセスの完了との組み合わせで、「Deploy is COMPLETE」というメッセージによるレポートを改善しました。

## 3.2.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- Hubをアップグレードするときに発生したデータ移行の問題を修正しました。

## 3.1.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- Hubスキャナ認証されたプロキシが正しく処理されるようになりました。
- BUILDING\_BOM状態のままであったコンポーネントスキャンに関する問題を修正しました。
- 
- プロジェクトバージョンの構成表の[セキュリティ]タブにおいて脆弱性の修正ステータスの編集が原因で、ページに別のコンポーネントが表示される問題を修正しました。

### 3.0.1で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- コンポーネントスキャンがステータスSOFTWAREのメッセージで失敗する問題を修正しました。
- ディレクトリ名の末尾にスラッシュがないディレクトリを含むzipファイルで、コンポーネントスキャンが失敗する問題を修正しました。
- 
- 
- 

### 3.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- プロキシ設定を追加または変更する方法を説明しているドキュメントをHubインストールガイドに追加しました。
- 
- スキャンのアップロード時に「マッチジョブのリクエスト」状態のままになるコンポーネントスキャンの問題を修正しました。

## Chapter 4: 既知の問題と制限事項

Hubの既知の問題と制限事項は次のとおりです。

- ライセンステキストが変更された場合、タイムスタンプと、ライセンステキストを編集したユーザーのユーザー名はUIに表示されません。
- ユーザーの認証にLDAPディレクトリサーバーを使用している場合は、次の点を考慮してください。
  - Hubは、単一のLDAPサーバーをサポートしています。複数のサーバーはサポートされていません。
  - ユーザーがディレクトリサーバーから削除されても、Hubユーザーアカウントはアクティブと表示され続けます。ただし、認証情報は有効ではなくなり、ログインに使用できません。
  - グループがディレクトリサーバーから削除されても、Hubグループは削除されません。グループは手動で削除してください。
- タグ付けでは、文字、数字、プラス（+）および下線（\_）のみがサポートされています。
- Hubがユーザーを認証している場合、ログイン中にユーザー名の大文字と小文字は区別されません。LDAPユーザー認証が有効になっている場合、ユーザー名の大文字と小文字は区別されます。
- コードの場所に大規模な構成表がある場合、コードの場所を削除すると、ユーザーインターフェイスのタイムアウトエラーで失敗することがあります。